

KAHF ニュースレター NO.6

連絡先 〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9 京大会館116号室

財団法人 京都国際文化協会内 京都ホストファミリー協会(KAHF)

2007.4.発行

皆様方には日頃留学生の世話に、また、KAHFの活動にご尽力いただき誠に有難うございます。

新学年が始まり、また多くの新留学生在大学にやってくる季節になりました。今年は4月22日(日)にケーキパーティーを計画しています(同封の案内をご覧ください)。これは新しい留学生在が多数申し込んでくれる機会になっております。是非、ご参加いただいて留学生と直接話しをして、気の合う学生をお引き受けください。

お世話をお願いした留学生との連絡がうまくいかないなどの問題のある場合は、早めに世話人にご連絡ください。問題解決に努力して、互いに学びあっていきたいと思っております。また、留学生の卒業、転学、帰国など、事情が変化したときは世話人までお知らせください。進学、学位取得、結婚、出産など嬉しいニュースもお知らせください。年に一回のニュースレターですが、色々な情報発信の場としたいと考えております。皆様方からの投稿も歓迎します。

HP 只今更新中！
写真・情報募集中！

Aブロック世話人代表 谷理昌敬

★ KAHFのホームページ、もう見て頂けましたでしょうか。

次々と新しい情報を載せて更新中です。写真や情報が不足しています。KAHFの行事に参加された時の写真などありましたら、下記までお送り下さい。より良いホームページにするために皆様のご協力を待っています。

▼こちらまで→ KAHFメール kahf@hotmail.co.jp
<http://www.geocities.jp/kahf.jp/>

2007年度
行事予定

4月22日(日) / cake party (A)



7月船鉾・岩戸山参観 (B 企画)



5月20, 27(日) / ハイキング (A 企画)

秋 / 大原 BBQ (A 企画)



B ブロック新年会



秋 / 見学会 (B 企画)





稲荷山ハイキング

5月28日(日)新緑の中、春のハイキング。今年は地元伏見にお住まいの西さんの提案で稲荷山へのハイキングに決まりました。学生時代からかれこれ40年近く京都に住んでいながら、一度も伏見稲荷にお参りしたことがなく、これは願っても無い機会だと、下見の時からワクワクしていました。というのも京都を舞台にしたドラマでは必ずと言っていいほど、伏見稲荷の赤い鳥居が出てきます。奥のほうにずっと続く、鳥居の下を通ってみたいと言う好奇心から・・・、でも実際、西さんと二人で薄暗い木々に囲まれた鳥居をくぐってみると、二人だけだったのでちょっと違う雰囲気にはまりました。

長く続く鳥居を通り過ぎると、頂上までかなりの坂道で、休まず一気に登ったものですから息もハァーハァー。普段の運動不足を改めて痛感しました。頂上近くの展望台から京都市内をぐるっと見渡すと先程の息切れどころかへばんでいって壮快な気分。

トイレの場所、お弁当を食べる場所、昼食後どのようなコースで下山するか、小さい子供も自力で登れるかどうか等々、考えながら一時間あまりの稲荷山下見散策は終わりました。

なお、当日はお天気にも恵まれ、A・Bブロック合わせて、約50名の参加者がありました。我が家の留学生の3歳の子供も最初は歩いていましたが、途中から抱いたりおんぶしたりで、最後の急勾配はちょっとしんどかったようです。ようやく着いた頂上で留学生、ファミリーと一緒に弁当を広げ楽しく過ごすことができました。

写真は昼食後の記念撮影です。



船鉾・岩戸山参観

昨年7月14日(金)15日(土)の両日、Bブロックの古川様のご好意で船鉾を、Aブロックの西別府様のご好意で岩戸山を参観させて頂きました。

参加者はファミリー、留学生で合計87人(Aブロック53人、Bブロック34人)でした。浴衣を着た留学生も多数参加し、祇園祭の風情を高めてくれました。

ただ宵々山の15日は三連休の初日でもあり、大変混雑・混乱した様でした。今夏もご両家にお問い合わせなのであれば、もう少し早い目を設定した方がいいように思われます。



京都市防災センターの見学・体験

10月29日(日)KAHFとしては初めての試みですが、京都市防災センターを見学種々の災害を体験し防災について学習しました。参加者はファミリー12人留学生19人で合計31人でした。内容は体験プログラム(映像、地震、強風)安全訓練(消火、避難、応急手当)など多岐にわたるものでした。地震や台風と言った自然災害のない国から来た留学生にとっては、貴重な体験になった様です。



大原バーベキュー11.12(ファミリー48/学生39)

11月12日毎年恒例の大原バーベキュー、普段の行いが良いKAHFの行事はほとんど雨知らずだったのに、なぜか降っちゃいました。よほど上空で悲しい事があったのでしょうか。まあ、雨は降っても楽しみはやはり食べ物、皆さまの持ち寄りのおでんも大賑わいあふれ、お料理名人の植村静枝さまの炊き込みご飯も売れ行き好調で、もしかしたらお口に入らなかった人もあるのでは?そんな方は次からは絶対食べて下さいね。ご婦人方の炊き込ご飯は、絶品ですから。

雨降りでもミニ運動会(玉運びリレー)はできませんでしたが、始めて和室を使ってビンゴゲームをしました。沢山あったゲームの景品もアレオアレオと勝者のもとへ、ひとしきり遊んだ後は、希望者のみ三千院へ、来迎院ではお琴のミニコンサートも開かれていい秋のひとつときだったのではないのでしょうか。今年は盛りだくさんな大原でした。



ファミリーの集い・Aブロック

2月24日、桂キャンパスでのファミリー懇親会、去年のニュースレターでも報告のあったホンジュラスでのボランティア活動のお話をして頂きました。その後キャンパス内のレストランで楽しく食事をし、希望者はキャンパス内のローム記念館の見学をし、充実したファミリーの会が出来たと喜んでいます。



新年会・Bブロック

1月14日開催の新春親睦パーティーは岡村様のご司会で、西夫人のご挨拶、猪野様の音頭による乾杯で始まり、歓談の後ビンゴゲームで盛り上がり、山本様の歌唱指導で「ビリーヴ」、「ふるさと」を歌い、最後には子供たちのお正月の歌声で和やかに幕を閉じました。留学生にはその後バザーでの買い物も楽しんでもらいました。当日は、留学生約60名、Bブロックから27ファミリー約50名、また昨年に引き続きAブロックからも17名のファミリーの皆様のご参加がありました。皆様のご協力と温かいご支援ありがとうございました。



KAHFの発起人である古田文武先生は、現在94歳のご高齢ですがますますお元気で活躍しておられます。KAHFの発足当時の経緯についてお話を伺いました。



KAHFの発足

古田文武

私は1952-3年にYale大学の客員研究員としてNew Havenに滞在したが、その間のhost familyとして同じConnecticut州のCos Cobという小さな町のWarner家で大変お世話になった。主人のMaurice氏は高校の理科の先生で、Ellen夫人との間に京都に残した私の息子と同じ年頃のAllan君が居た。Warner家は教会関係か何かのグループに属していたのかも知れないが、そのようなグループと留学生とは全く無関係であった。その後も訪米の度にWarner家を訪れたが、10年ほど前にWarner一家が故郷のTexasへ移ってからはご無沙汰している。Yaleで神学と教養を学んだAllan君は今も独身と思う。

1970年私は客員教授としてPennsylvania大学で教えたが、当時同大学の助教授だったDr. Michael S-K Chen（陳希寛博士）と親しくなり今日に及んでいる。陳夫人は小学校の先生で、その同僚のHudson夫人の娘のHeather HudsonがPennsylvania大学を卒業して京大で日本美術史の研究をしたいので世話してくれと頼まれた。1983年秋から京大との交渉を始めたが、米国からの直行便で伊丹空港についたHeatherを出迎えたのは1984年1月21日であった。その直後から留学生掛での手続き、指導教官の文学部佐々木丞平先生との面談、下宿探し、外人登録、電話の購入、選2回の日本語の指導などすべての世話をした。当時の日記を見ると殆ど毎日Heatherに会っている。

Hudson家はHudson河やHudson湾にその名を残しているHudson船長の子孫で米国の名門である。Heatherは欧州旅行で知り合ったオーストラリア人と結婚後も夫婦別姓を守っている。私も訪米の度に彼等を訪問し、Massachusetts州のHudson邸に泊めて頂いたこともある。2001年に訪米した時にはHeather夫妻、Hudson母堂、2人の娘揃って、私が泊まっていたDr. Chenの家まで来てくれた。最近の便りによると、娘達も大きくなったのでHeatherはまた大学に入学して別の分野の勉強をしているとのことである。

Heather Hudsonの世話をしてみても、留学生の面倒をみるhost familyの必要性を痛感したので、何人かの先生方によびかけて、賛同して頂いた。1984年3月12日に京大会館のコピーで開かれた第1回のKAHF世話人会の出席者は私のほか、西朋太先生ご夫妻、福井夫人、上久保先生、田代夫人、白石夫人、オブザーバーとして京大留学生掛の浦上氏であった。なおKAHFという名称は私とHeatherと二人で考えたものである。また京大会館の国際文化協会事務所のアドレスを使わせて頂けるようになったのは、仏教大学の森田久男先生の好意的なご紹介のお陰である。各ファミリーに参加を呼びかける手紙は家内が手書きしたものを50枚コピーして、3月14日に京大会館に持参し、白石夫人、西先生ご夫妻との共同作業で発送した。かくしてKAHFはささやかにスタートした。





葉 思 祺 (台湾)

2006年10月29日に京都市市民防災センターに見学しに行きました。防災センターでは、災害の歴史などの文字資料が見られるだけではなく、多様な体験施設が体験できます。今回私たちはビビッドな強風や地震の模擬体験をしました。その中、一番印象が深いのは、消火体験です。消火体験というのが、消火訓練室で模擬火災をモニターで再生し、消火器や屋内消火器の使い方を学ぶことです。私は幼い頃から消火器の使い方を学びたかったのですが、なかなかチャンスがなかったです。この消火体験によって私がやっと消火栓の使い方が分かるようになり、うれしかったです。私の出身地である台湾はよく地震が起きるところですが、京都市市民防災センターと同じような機構がありません。残念だと思います。今回の見学によって防災に関する知識を身につけ、またいろいろ防災体験を参加して、本当に役に立ったと思います。最後、あらためてこの交流活動を参加させていただいたKAHFに感謝いたします。そして、そのような意義のある活動が毎年続けられるように願っています。



留学生と付き合う際のQ/A



KAHFのファミリーとして留学生と付き合う際に留意したい点をいくつかQ/Aの形で記させていただきます。

Q: 紹介していただいた留学生に何度電話しても連絡が取れません。どうしたらいいのでしょうか?

A: 夜遅く帰宅する学生も多く、大学の研究室の方が連絡の付きやすいこともあるようです。また、電話の通じにくい場合には葉書またはメールによる連絡が確実のようです。

Q: 留学生との付き合い方はどうしたらいいのでしょうか?

A: KAHFでは、留学生のお世話をするというよりは異文化交流といった双方向的な付き合いというスタンスを心がけています。お客様扱いは避け、普段のままのお宅に家族の一員として迎えてください。来日直後は淋しくしていることが多いので、度々お声をかけていただくのがよいようですが、本人の京都の生活への慣れや勉学の状況などを見ながら調整してください。本人が勉強で忙しそうときは、電話や手紙で様子を知っていただくのがよいようです。

Q: 用いる言語はどうすればいいのでしょうか?

A: 原則として日本語で話すのがよいと思われませんが、予め本人の希望も聞いてください。本人が日本語の学習を希望する場合にはご協力ください。親しくなった結果、私たちが外国語に慣れるのは望ましいことですが、最初から留学生を外国語学習の相手としてみることは本会の趣旨とは異なるものであることをご了解ください。

Q: 保証人になって欲しいと頼まれましたが、引き受けるべきでしょうか?

A: 昔は留学生のホストファミリーになると、兄弟親戚を呼び寄せるための身元引受人を頼まれたりしたことがありますが、法改正もあって最近はこのようなケースは少なくなってきています。ただし、アパートや下宿および金銭に関わる連帯保証人を頼まれることはあります。KAHFの立場としてはこれらの保証人にならないことにしています。個人的に仲良くなってくると断るのが難しいケースも出てくると思います。その場合は、KAHFの方針である旨をさせていただくのも一方法です。

Q: 食事について留意することは何でしょうか?

A: 普段のままの食事で結構ですが、宗教的な理由で飲食できないものがある場合もありますので、予め本人に尋ねてください。また、食事の用意や後片付け等も申し出があれば一緒にしてください。